

## 三田裕信〔環境省中国四国地方環境事務所 廃棄物・リサイクル対策課〕

### 瀬戸内海の家ごみ問題について

#### 1. 海ごみ問題とは

瀬戸内海地域のほとんどを含む瀬戸内海国立公園は、1934（昭和9）年に日本で最初の国立公園の一つとして指定されており、人気の観光名所である小豆島をはじめとした景観のすぐれた多数の島々が点在している。自然の中に人の営みが溶け込んだ景観も特徴であり、世界文化遺産で名高い厳島神社が波の穏やかな海洋にその美しい姿を称えている。また、瀬戸内海は、カキ、シタビラメ、タイ、イカなどの海産物がとれる豊富な漁場でもある。

しかし、このような優れた景観を誇り、豊かな水産資源を育む瀬戸内海に、海ごみ（海底ごみ、漂流ごみ、漂着ごみの総称）によって様々な悪影響が生じていると指摘されている。

海ごみとは、海底に蓄積したり、海面・海中を浮遊し、または海岸に漂着している不要物のことである。海に流れ込んだプラスチック等のゴミは、海岸に流れ着いたり、海底に堆積したりする。こられはなかなか

分解されずにたまっていく一方、波や紫外線により劣化して細かい断片に変わっていき、海域の環境悪化につながっていくと考えられる。また、多くの場合ゴミの発生する場所と流れ着く場所・沈んでいる場所が異なっており、特に漂流ごみ・海底ごみのような日常的に被害が目につかないゴミについては、ゴミの回収・処理に大変な手間とお金がかかると考えられる。

#### 2. 瀬戸内海海ごみ対策検討会における検討結果

環境省中国四国地方環境事務所では、2005年度に漁業協同組合、関係行政機関、関係団体等からなる瀬戸内海海ごみ対策検討会（以下「検討会」と呼ぶ。）を立ち上げ、瀬戸内海の海底に存在するゴミの種類や量、分布等について、その実態を調査するなど、海ごみの発生抑制（海ごみ発生の元を絶つ）と適正処理（今ある海ごみを回収し適切に処理する）を進めるための調査・検討を進め、3年間の検討の結果を調査検討報告書としてとりまとめた。

特に、2007年度には、検討会の下に設置された実態把握専門部会において、瀬戸内海の合計11地域、53地点で底曳き網漁船を用いて海底ごみの実態把握調査を実施し、1地点を除く全ての地点でゴミが回収され、多いところでは2万個以上のゴミが回収されるなど瀬戸内海の広範囲で海底ごみが存在することが確認された。また回収したゴミについて分類したところ、個数比で見ると、海底ごみの87%がプラスチック類であり、アルミ缶やスチール缶などの金属類が6%、軍手、布片などの布類が2%と続いている。最もごみの種類で多くを占めていたプラスチック類の内訳を見ると、原形をとどめていない袋の破片やスーパー・コンビニの袋、お菓子の袋など陸での人間の生産活動や消費生活に伴って発生したと思われるゴミが大半を占めていた。もちろん自動車や家電、大きな板など、網が破損したり、引き上げ困難なゴミの存在も多く指摘されているところであり、その実態は本調査では把握できていない可能性はあるが、

2006年度の発生抑制部会における調査でも生活系ごみが大半を占めているという結果が出ており、海ごみの多くが陸域で発生して海に流れ出し、海底に堆積することになったものであると考えられる。

また、2008年度には、海底ごみの回収処理に取り組む当事者の負担感を少しでも軽減・平準化するための合理的な枠組みの構築などを進めるために海底ごみの持ち帰り実験事業を行った。本実験事業や漁業者及びゴミの受入れ施設の状況を踏まえた上で、海底ごみの性質や、受け入れ量、回収における工夫点などについて、海底ごみ問題に関する関係者の理解が深まることにより海底ごみの回収処理をさらに推進することができるとの感触を得た。

以上の検討会の結果を踏まえ、中国四国地方環境事務所では、海底ごみ回収の取組を促進するために「海底ごみ回収処理推進の手引き」を作成し漁業者や自治体の方に対して周知を図った他、若年層を対象にした海底ごみの補助教材「海ごみ教材資料 ゴミになったアルミン」及び「僕らの身近な瀬戸内海～海底ゴミ教材補助資料～」を作成し、環境学習施設や小学校における環境教育に活用いただいているところである。

### 3. 終わりに

現状では、海底ごみが生態系に及ぼす影響など十分に明らかになっていないところもあるが、漁場保全の問題や漁獲効率を落とすなどの被害は指摘されているところである。また、身近な瀬戸内海の海底にゴミが沈積していくことを放置することは、環境保全の観点からも望ましいものではない。

い。検討会の報告書においても、種々の検討課題が挙げられているところであり、今後、陸域含めた地域全体で海ごみ問題の存在や地域への悪影響についてしっかりと認識し、海ごみの発生抑制や回収処理について各当事者の立場でできることを考え着実に実行していくことが必要になる。

### <海底ごみ・漂着ごみの写真>



### <参考>

瀬戸内海海ごみ対策検討会調査報告書

URL : [http://chushikoku.env.go.jp/recycle/mat/m\\_3\\_1.html](http://chushikoku.env.go.jp/recycle/mat/m_3_1.html)

「海ごみ教材資料 ゴミになったアルミン」

「僕らの身近な瀬戸内海～海底ゴミ教材補助資料～」

URL : [http://chushikoku.env.go.jp/to\\_2010/1025a.html](http://chushikoku.env.go.jp/to_2010/1025a.html)